

第51回 建築士会全国大会「とくしま大会」に参加して

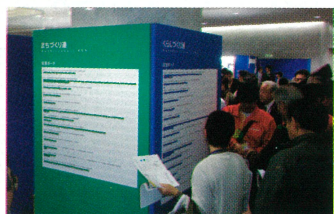
広島支部 藤井 秀幸

10月25日、徳島市で建築士会全国大会「とくしま大会」が行われました。「阿波の地で連（REN）に学ぶ一市民と建築士が協働する もの・まち・くらしづくり」をテーマに、全国から1,300余名の参加者が集い、会場には熱気があふれていました。

午後に会場に到着。建築士交流セッションⅠ（実践活動型）、建築士交流セッションⅡ（社会組織型）、青年建築士の活動報告会の各セッションに加え、屋台形式のものづくり連、まちづくり連、くらしづくり連の各ブースが所狭しと並んでいました。また、屋外では物産の販売をしていて、各会場を忙しく訪問して回りました。



建築士交流セッションⅠ（実践活動型）では、兵庫県の藤本氏が実験施設E-ディフェンスや、耐震補強支援活動を報告。建築士交流セッションⅡ（社会組織型）では、免許制度や保証制度、保険制度などの最新の建築関連法規改正の解説（最新情報）と、社会に求められる建築士の役割について、熱心に聞き入る参加者の姿が印象的でした。



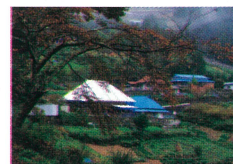
屋台形式のブースでは、町家の改修（耐震補強）や耐震の出前授業、伝統工法や蔵・町並みなど伝統建築の保存活動、生活者の視点に寄り添った提案やアンケート調査など、きめ細やかな方法論が展開されていました。新しい技術は、DAASの建築アーカイブ（古い資料をデジタルでリフレッシュし、データベースを公開する）や、3D-CADの活用の展示が目を引きました。伝統工法やきめ細やかな（建築士としての目線から見た）技術を蓄積し、残していこうという意欲を感じる展示が多いという印象でした。

2日目は、奥祖谷の民家と伝統的建造物保存地区に指定された落合集落及び古民家、奥祖谷の二重かずら橋を訪ねるツアーに参加しました。『木村家、小采（こうね）家住宅は茅葺きの山村農家で、一間ごとに立つ部屋堺の柱に長押をまわし、その上部の貫とともに軸組を固める「ヌキダチ」構法である。18

世紀には、内法高さから上部を抜きおとした柱に幅の広い横架材を落とし込むという「コキバシラ・オトシコミ構法」が現れ、19世紀に広く普及する。同じ剣山地方の木屋平では、「コツコミ」と呼ばれ、この地方に特徴的なものである。』（「阿波の町並み探訪」より）



祖谷の急峻な川沿いの谷に佇む素朴な民家を訪れ、その都市部との距離感に、ある種の絶望感と、申し訳のない気持ちと言おうか、絶望的な状況がこない限りこのような場所に暮らそうとは思わないであろう、自分の日常生活を顧みる機会あったように思います。落合集落の素朴な材料でできた家屋。石垣で支えられた周辺の畑には、芋類やソバなど素朴な食材



が耕作され、収穫される。阿波町並み研究会のメンバーが、地域拠点としての古民家改修を試みていることに、頭が下がる思いです。

平成17年に重要伝統的建造物群保存地区に選ばれて以来、建造物及び文化の保存に尽力されてきた地元保存会の会長さんのご自宅は、築約210年。茅はいくらでも確保できるし、柱及び土台に使用される栗材も近隣で調達できるそうです。建築資材としての調達は高知の市場で徳島産の栗材を見つけ、大工さんも新居浜の方ということで、材料よりも働き手や職人さんの確保が問題であるとか。昭和40年代には多くあった茅葺きの民家は、もはや見つけることが難しいのが現状です。

特徴ある町並みや、藍染めなどの伝統工芸。自然豊かな徳島を訪れる度に、献身的な徳島士会のメンバーの温かさに癒されます。「現在（いま）」を見直す良い機会になった全国大会でした。

MONTHLY 建築士

HIROSHIMA



表紙写真について

「有料老人ホームあすなろ苑」新築工事

- 発 注 者／(有)ナオヤ
- 設計・監理／(有)デザインオフィスOZAKI（大分県）
- 施 工／山陽建設(株)
- 所 在 地／三原市頼兼2丁目
- 構造・規模／鉄筋コンクリート造4F建
- 敷地面積／1558.34㎡
- 建築面積／598.77㎡
- 延べ床面積／2112.70㎡

丘陵地に建つこの施設は、県立大学三原キャンパス、宮浦中学校が建ち並ぶ学園町に隣接したデイサービス併設の老人ホームです。さわやかな学生さんの声や行事・クラブ活動等の季節を感じさせる音色が穏やかに居室にこだまし、入所者・職員の方々に目には見えない優しさを享受できる生活環境を取り込んだ施設でもあります。

外観はコンストラストを付け、バルコニーはR及び多面型でソフトなデザインで設計されています。施設の出入り口にはシンボルツリーである「あすなろの木」を植

栽。外壁のサインは御施主の直筆で表現され、心から来訪者・入所者の方を施設へ迎える、温もりあるアプローチです。内部は高低差がある敷地の中へ諸室を巧みに配置して立地リスクを解消し、快適で透明感のあるプランとなっています。内装材は床や腰壁、化粧梁に木目調を使用し、自然に「暖・柔・和」を感受し、高齢者の方に安心感を持って頂ける空間づくりに努められています。各階のEV搭乗口、介護コーナーの床材は色を変えて階数の識別がされ、居室（家）には花をあしらった表札(各戸45種類)と玄関を醸し出した底が取り付け、**「我が家」**を連想させます。

施工者として感じたことは、さりげなくコントロールされた環境と、人と触れ合う生活空間のあり方を提供しつつ、個人の生活スタイルに順応できる施設と感銘致しました。 施工者：山陽建設株式会社 西野 裕孝



平成20年度「CPDデータ登録」及び「専攻建築士登録申請」は受付を終了致しました

本年度の受付期間が終わりました。登録人数等の集計ができ次第お知らせ致します。また、CPDの結果と手帳は、早ければ年内にはお返ししたいと思っております。会員の皆様、お疲れ様でした。しかし、CPDの新たな年度はすでに11月よりスタートしております。これからまた、来年のデータ登録を目指して研鑽を積んで下さい。平成21年11月にデータ登録が可能な研修プログラムや実務実績は、平成20年11月1日から平成21年10

月31日の期間のものです。但し、この期間に新たに入会された方は、入会月からのものが有効です。

E.X. 平成21年1月入会、平成21年5月CPD参加登録の方でも、1月からの研修プログラム等が有効となります。

平成21年度版の申請書類は、来年8月頃にホームページに掲載致します。

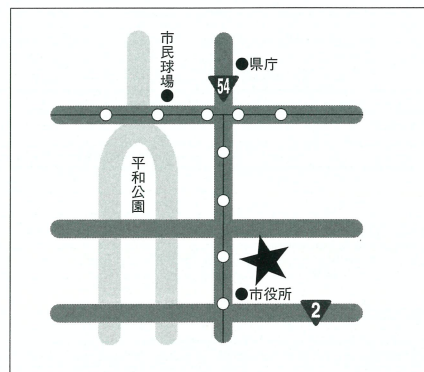


指定確認検査機関（中国地方整備局長指定第1号）
登録住宅性能評価機関（中国地方整備局長登録第5号）

ハウスプラス中国住宅保証株式会社

代表取締役社長 河内 昭士

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目3番32号
TEL.082-545-5607(代表) FAX.082-545-5608



支部だより 広島支部 「ぺあせろべ 2008」に参加

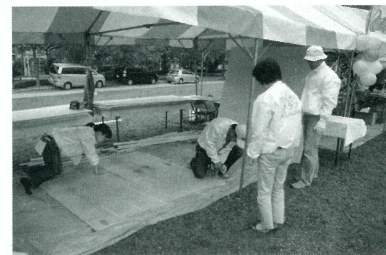
10月26日(日)の10時から、広島市中区基町にある広島中央公園芝生広場で「ぺあせろべ2008」が開催されました。国際交流を目的とし、アジア地区を主とした各国の国際交流団体が参加しています。

建築士会広島支部では、青年部会と女性部会の合同で「けんちくクラブ」という団体を起こし、毎年参加しています。今年は「珪藻土を塗ってみよう!」と題し、中学生以下の子どもに5



色の珪藻土をボード上に塗ってもらう体験の場を提供しました。幼稚園児から小・中学生まで、非常に好評でした。驚いた

のは、保護者のお父さん、お母さんたちの反応です。材料の安全性、建築資材としての効果、価格など、質問攻めにあっているスタッフもいました。お手拭きなどの清



拭用具も準備していたのですが、「こういう建築材料を塗らせてもらって、手が汚れたことも思い出から家まで洗わずに帰ります」とおっしゃる親御さんや、あまりに器用に塗るわが子に「将来は左官職人に…」とおっしゃる親御さんもいらっしゃいました。

最後は、メンバーが「ぺ」「あ」「せ」「ろ」「べ」の文字を珪藻土で書き込み、集合写真を撮影して今回のイベントは終了しました。



支部だより 広島支部 第37回 広島支部ボウリング大会を開催

広島支部スポーツ委員長 井手口 耕三

10月15日(水)、ヒロデンボウルにて第37回広島支部ボウリング大会を開催しました。川本支部長の開会挨拶の後、3ゲームトータル(アメリカン方式)にて行いました。参加者は15名でした。日頃から練習している参加者が多く、ストライクラッシュで圧倒されました。来年1月中旬に広島支部予選会を開催する予定ですので振るってご参加下さい。結果は下記の通りです。

優勝 光宗 忠男(645)
準優勝 高岡 賢治(574)
第3位 林 憲和(543)

※()内の数字は3ゲームトータルの得点です。



あなたの作品で表紙を飾ってみませんか?

随時、表紙用の写真を募集しています。写真(プリント、ポジ、データ)2~3点を設計概要、設計趣旨(400字程度)と一緒に送ってください。会員の皆様からのご応募をお待ちしています。

社団法人 広島県建築士会

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F
TEL (082) 244-6830(代) FAX (082) 244-3840
mail : info@k-hiroshima.or.jp
URL : http://www.k-hiroshima.or.jp/

住宅相談会（おのみち福祉まつり）

10月18日(土)19日(日)、尾道市総合福祉センターで開催された「おのみち福祉まつり」の中で、広島県建築士会尾道支部と尾道市建築指導課の協賛で、昨年に引き続き住宅相談会を行いました。耐震等に関する啓発を目的として、相談会・パンフレットの配布（約1,300部）・耐震模型の実演・耐震関係のビデオ上映等を実施しました。



今年は尾道市で耐震診断費補助事業をしていることもあり、耐震診断に関する相談もありました。耐震模型で



は、筋違の有無での建築物の耐震性を実感してもらいました、ささやかな記念品として来場者に鉛筆を配りました。

「福祉まつり」の一部で開催したこともあり、子どもからお年寄りまで多くの人に来場していただき、大盛況のうちに終了しました。また来年も今年以上に成果の住宅相談会を開催していきたいと思います。

当日の相談内容及び件数

耐震診断・改修	2件
アスベスト関係	1件
リフォーム関係	2件
その他	1件

2008 三原市生涯学習フェスティバル

三原支部 広報委員 西山 貴志

対象に、耐震診断に係る経費の約3分の2以内の額（上限2万円）を補助しています。この補助制度の説明や、家具の転倒防止法、既存建物の耐震に対する相談などを受けました。

相談の来場者数は2日間で80名と少なく、耐震診断及び相談会場のPR不足を感じましたが、この反省を今後の取り組みに生かしていければと思います



10月25日(土)、26日(日)に『2008 三原市生涯学習フェスティバル』が開催され、市内各所でイベントが行われました。

その中で建築士会三原支部は、三原市建築課と共に「耐震診断・改修の啓発、相談」というタイトルで各種啓発パネルを展示し、相談窓口を設置しました。

現在三原市では、昭和56年5月31日以前に着工された戸建て住宅等（木造2階建て以下）を



公開まちづくりセミナー2008 ～時を超える建築の価値～

事業委員会 北台 幸祐

「いまこの時代において、何をなすべきかを考える」

三分一 博志 氏

三分一氏は「時を超える建築」の具体像には触れず、「この時代で、我々は何ができるのか、何をすべきかを考えることが大切」と話されました。「地球のディテールをデザインすることに関心がある」とも話され、建物が建つ場所の気候や風土に最も適した建物を理想とし、そのためには従来の建築システムに捉われることなく、自ら答えを出そうと努力されています。三分一氏の話を聞き、これからの時代の建築の価値を築くには、既成の価値基準を尊重しながらも、この時代の課題を自分の課題として引き受ける覚悟と、それに向き合う勇気と行動力が必要だと強く感じました。

事業委員会では、普段聞くことのできない建築家による講演会を2005年から毎年開催しています。今後も、広島のみちづくりのきっかけになるような講演会を実施していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



10月18日(土)広島県情報プラザで、「公開まちづくりセミナー2008」が開催され、遠くは大阪や高知から約200名の参加をいただきました。

セミナー前半は建築家林昌二氏(日建設計名誉顧問)による基調講演、後半は「時を超える建築の価値」と題して、錦織会長の司会の下、林氏と三分一博志氏(三分一博志建築設計事務所代表)による対談が行われました。詳しい内容については、改めてお伝えしたいと考えていますが、ここでは「時を超える建築の価値」に対する両氏のメッセージを紹介します。



「長く使われ続ける建物」

林 昌二 氏

林氏は、「できるだけ長く使われる建物だと思います。使い捨ての建物では駄目です」と話されました。戦後の決定的にモノが不足していた時代、デザイン・性能に優れた建物をつくることに苦心された林氏は、30年も経てば当然のように住宅が建て替えられている現状に警鐘を鳴らされました。建物を長く使うためには、建物(モノ)の性能の追求だけでなく、私たちが「モノを大切に作る心」を取り戻し、「いい建物をつくり、きちんと手入れして、長く大切に使う」という意識を持たなければならないと、力説されました。



2008・2009 Information Calendar 12月・1月の行事予定

12 December

- 4 木・戸建木造住宅の構造計画
(住宅・建築関係講習会実施協議会・RCC文化センター)
- 16 火・戸建木造住宅の構造計画DVD
(住宅・建築関係講習会実施協議会・RCC文化センター)
- 20 土・見学会:奥家(三次市)・円通寺(庄原市)(三原支部)
- 26 金・仕事納め

1 January

- 5 月・仕事始め
- 16 金・新年懇親会(広島支部)
- 24 土・新年互礼会(福山支部)
・新年互礼会(県北支部)
- 28 水・広島支部ボウリング大会
・福山支部ボウリング大会